

中期経営計画の最終年度数値目標修正に関するお知らせ

■ 修正の理由

当社グループでは、2024年5月に、2021年11月公表の中期経営計画に足元の事業環境変化を織り込んだ「Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024」を策定しました。

当事業年度をスタートとし、2026年度を最終年度とするローリングプランでは、3つの基盤事業の強化に伴うオーガニック成長を見込み営業利益を上方修正するとともに、さらなるアップサイド要素（インオーガニック成長）として、事業領域を広げるためのBD（Business Development）戦略を盛り込んでいます。

しかしながら、国内電力インフラ市場が当初の想定以上に活況であること、一方でxEVの普及が後ろ倒しで推移しているほか、日系家電メーカーのプレゼンスが低下し当社のワイヤハーネス事業の環境が変化していることなどから、当第3四半期において、計画最終年度である2026年度の数値目標を改めて見直すことといたしました。

今後も事業環境の変化に柔軟に対応しつつ、ROICを指標とする事業ポートフォリオマネジメントを推進し、事業のキャッシュ・フロー創出力を強化することで、成長投資の確実な実行と株主還元の充実を図ってまいります。

<ご参考> 2024年5月13日公表

「中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024」

<https://pdf.irpocket.com/C5805/EyBn/f7mo/DJbH.pdf>



中計ローリングプラン2024策定にあたり

2022年から始まった中期経営計画の前半が終了しました。この2年間を振り返ると、戦略製品の増産投資、キャッシュ・フロー事業のDX推進による収益力強化など基盤事業の収益力強化や、Smart Stream事業の立ち上げといった新規事業創出の面では一定の成果を出すことができ、掲げたKPIに向けて順調に進捗しております。一方で、海外事業の新展開においては、コロナ禍や地政学的リスクを要因に計画の遅れが生じ、課題が残る形となりました。こうした中、現中計を策定した2021年11月から足元の事業環境は大きく変わりました。今回のローリングプランでは、この変化を考慮して事業戦略、投資戦略を見直し、成長ドライバーへのさらなる投資やポートフォリオ転換を目指すためのBD（Business Development）戦略にも力を入れていきます。

2022年から始まった中期経営計画の前半が終了しました。この2年間を振り返ると、戦略製品の増産投資、キャッシュ・フロー事業のDX推進による収益力強化など基盤事業の収益力強化や、Smart Stream事業の立ち上げといった新規事業創出の面では一定の成果を出すことができ、掲げたKPIに向けて順調に進捗しております。一方で、海外事業の新展開においては、コロナ禍や地政学的リスクを要因に計画の遅れが生じ、課題が残る形となりました。こうした中、現中計を策定した2021年11月から足元の事業環境は大きく変わりました。今回のローリングプランでは、この変化を考慮して事業戦略、投資戦略を見直し、成長ドライバーへのさらなる投資やポートフォリオ転換を目指すためのBD（Business Development）戦略にも力を入れていきます。

に上方修正しておりますが、安定から成長につながる投資によりこれをさらにアップサイドに持ち上げる施策を講じ、2030年までのありたい姿に近づきたいと考えています。具体的には、ROIC経営にさらなる磨きをかけて事業のキャッシュ・フロー創出力を強化するほか、資本戦略の強化により資本コストの最適化と株主還元の充実を図ります。また、これまでの改革を後戻りさせない人的資本戦略も充実させるほか、今回の目標値のアップサイド要素（インオーガニック）として、事業領域を広げるためのBD（Business Development）戦略にも力を入れていきます。

SWCCグループ中期経営計画「Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024」の新たな中期目標を設定し、2024年度からスタートします。

代表取締役 CEO 社長執行役員
長谷川 隆代

SWCC VISION 2030 2030年までのありたい姿

SWCCが培ったコア技術をもとに、より良い未来につながる新しい価値を創造し、さらなる企業価値向上を目指す

経済価値向上 オーガニック成長 & インオーガニック成長

社会価値向上 人の暮らしを変える社会インフラの構築 省人化・省電力化への貢献

SWCC VISION 2030
インフラだけじゃない。電線だけでなく、SWCCはソリューション提案型の価値創造企業へ

エネルギー・インフラ
DXにより生産効率の向上
戦略製品のファクトリスタンダード化

電線・コンポーネント
線材から高付加価値製品
へのシフト

総合電線
メーカー

通信・産業用デバイス
オフィス・家電向けから
ADAS向けなど新領域へ参入

電線メーカー

3

中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024

2026年度計画見直し（連結）

事業環境変化を織り込み2024年5月公表の中期経営計画ローリングプランの最終年度の目標値を**アップサイドに見直し**。

		2024年5月公表		今回見直し	
		FY2026 (目標)		FY2026 (目標)	
収益性	営業利益	170億円	➔	240億円	+70億円
	ROE	14%以上		14%以上	
効率性	ROIC	10%以上		10%以上	
	配当金 (配当性向/DOE)	150円以上 (35%以上/4%以上)		180円 (35%以上/4%以上)	+30円
株主還元	DEレシオ	30~50%		30~50%	
安定性	純資産	930億円		1000億円	+70億円

中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024

2026年度計画見直し (セグメント別)

(単位：億円、%)		2024年5月公表 FY2026 (目標)	今回見直し FY2026 (目標)	増減	見直しのポイント
エネルギー・インフラ事業	売上高	1,240	1,450	210	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業環境変化 <ul style="list-style-type: none"> 建設：高位安定で需要継続。 電力：国策を背景に、高経年設備の更新需要、再エネや、データセンター向けの需要が増加。競合の撤退、工事の平準化など追い風が続く。 ■ 打ち手 <ul style="list-style-type: none"> 建設：キャッシュカウ最大化。 電力：さらなる増産投資約20億円、施工力増強。
	営業利益	112	188	76	
	営業利益率	9.0%	13.0%	4.0%	
電装・コンポーネンツ事業	売上高	730	590	▲140	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業環境変化 <ul style="list-style-type: none"> 高機能製品：xEVの普及は後ろ倒し。 ■ 打ち手 <ul style="list-style-type: none"> 高機能製品：川下戦略へのシフトを強化・促進。
	営業利益	26	20	▲6	
	営業利益率	3.6%	3.4%	▲0.2%	
通信・産業用デバイス事業	売上高	360	360	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業環境変化 <ul style="list-style-type: none"> 通信：データセンター市場における需要が旺盛。 ワイヤハーネス：日系家電メーカー向け需要減少。 ■ 打ち手 <ul style="list-style-type: none"> 通信：FLANTEC®とe-Ribbon®のさらなる拡販。 ワイヤハーネス：車載分野への展開加速。
	営業利益	35	35	-	
	営業利益率	9.7%	9.7%	-	